

～ウェルビーイングな社会の実現に向けて～

# 「ひとが真ん中。」のまちづくり

足立市長は「ひとが真ん中。」を基本姿勢とし、「ひとを守る」「ひとを育む」「ひとを支える」「ひとを豊かに」「ひとを元気に」の5つをまちづくりの柱として掲げ、さまざまな事業に取り組んでいます。

政策の取組状況について 市長室 ☎537-5600



「おおいた医療ネット」の運用開始 (6年7月～)



患者の同意のもと、地域の医療機関等がICTを活用して診療情報を相互に共有・閲覧し、市民の健康を支えます。

保育料無償化の拡充 (6年4月～)



認可外保育施設を利用する保育の必要性がある第2子以降の0、1、2歳児の保育料無償化を実施しています。

小学校5年生のピロリ菌検査 (6年4月～)



希望者を対象にピロリ菌の検査を行い、検査後から除菌治療までの間、継続的にフォローアップすることで将来の胃がん等のリスクの軽減を図ります。

返還免除型の奨学資金の創設 (6年4月～)



進学を志す学生の経済的な負担軽減と卒業後に本市で活躍する人材の育成・確保を目的に、所得制限なしの返還免除型の奨学資金制度を創設しました。

介護DXの先行実証 (7年1月～)



要介護認定の効率化に向けて、デジタル化に関する国のモデル事業に参加しています。

若手起業家育成施設「Mirattend」のオープン (6年10月～)



先輩起業家から学ぶ場の提供をはじめ起業に関連するイベントの開催や、サポート企業による起業支援等を行う施設を本格オープンしています。

下水汚泥燃料化施設の供用開始 (6年10月～)



大分市および県内8自治体から排出される下水汚泥を集約し、石炭等の代替燃料として固形燃料を製造・利用する施設を稼働しています。

おおいた「夢」花火の開催 (6年9月)



県都大分市で大規模な「花火大会」を継続して開催するため、『おおいた「夢」花火実行委員会』を設立し、大分川の弁天大橋上流で開催しました。

※ Mirattend (ミラテンド) とは、「未来+アテンド」の造語で「若手起業家が理想の未来に向かって社会全体をアテンドする」「本施設が若手起業家をアテンドする」という意味を込めています。

## ひとが真ん中。まちづくり 5つの柱

### ひとを守る

自然災害や感染症などのリスクをあらゆる角度から想定し、被害を最小限に抑え、市民の生命と財産を守ります。

### ひとを育む

妊娠・出産・子育てから高等教育まで切れ目のない支援で、誰もが安心して子どもを産み育てることができる環境をつくりまします。

### ひとを支える

少子高齢化による地域コミュニティの衰退などに備え、誰もが役割を持ち、お互いに支え合い、自分らしく輝ける社会の実現を目指します。

### ひとを豊かに

市民生活の向上と心豊かな暮らしを実現します。また、このまちを次世代へ引き継ぐため、持続可能なまちづくりを進めます。

### ひとを元気に

人とまちが元気に輝き続けられるよう、新たな魅力が生まれるまちづくりを進めます。

## まちづくりのこれから

当初予算編成に当たっては、政策目的の実現に高い効果が認められる事業の拡充や新規事業の創設を行う一方で、社会情勢の変化により必要性が低下している事業や費用対効果が低い事業の徹底した見直しを実施するなど「選択と集中」の考えのもと進めてまいりました。

本格的な人口減少社会を迎え、その大きな要因である少子化への対策を最優先課題と位置付け、妊娠・出産・子育てから大学などの高等教育まで切れ目のない支援の充実に取り組むとともに、医療・防災体制の強化やDXの推進、脱炭素化の促進、若者が活躍できる環境の整備など幅広い分野での取り組みを進め、将来にわたって市民を守り、育み、支え、そして豊かに、元気にする「ひと」を中心に置いたまちづくりを推進してまいります。

将来を予測することの困難さが増す時代において、進むべき方向性をしっかりと見据え、すべての市民が身体的、精神的、そして社会的にも満たされる「ウェルビーイング」な社会、誰もが“幸せ”を実感できるまちOITAの実現に向けて、市政運営に全力で取り組んでまいります。

## 7年度の予算が決まりました



大分市長 足立 信也

今年はこちらに力を入れます！